

成果報告

1. 学校名：和歌山県 那智勝浦町立 下里小学校
2. 活動テーマ名：『もっともっと、ふるさと"那智勝浦""和歌山"の海を知ろう！』
3. 実践の概要

本校は、児童数94名（家庭数74）の当地方では中規模の小学校である。校区は、海岸線に面し漁港、海水浴場、磯場、ウミガメが産卵する浜辺を有し恵まれた自然環境の中にある。しかし保護者の就労先は、漁業、漁業協同組合、水産加工、海運関係がそれぞれ1名ずつと、子どもたちの社会的な海とのつながりは決して高いとは言えない。加えて遊びの変化など子どもたちが海と親しむ機会は減少する一方である。恵まれた自然環境や生命の多様性、産業を理解すると共に多様な体験活動を行って、知識、思考力を高め、未来の地域・社会を担う人の育成を目指している。

実践内容については、長年にわたって本校において行われてきた所謂伝統的な活動もあれば、本年度初めて実践する試験的な意味合いを持つ実践もある。いずれも本校の児童の状況や地域の特性という要素と海洋教育の目的という二つの点で合致していると判断して実践した。また、その内容については本州最南端に位置し黒潮の影響を受ける海に面している点を活かす実践やマグロの水揚げ日本一という町の産業に関係する実践を行い、地域性豊かな教育実践を展開した。

4. 実践計画

①テーマ、概要・活動計画、教科等との関連

活動テーマを『もっともっと、ふるさと"那智勝浦""和歌山"の海を知ろう！』と設定し本校が立地する紀伊半島南部の海岸線という地域性を活かした活動を全学年に渡って展開した。

また、昨年度の実践から課題として教科学習との関連性の明確化が挙げられていた。そこで今年度は年度当初より職員全体により『海の時間』と『各教科』の学習内容の関連性を学年別に洗い出し、各教科での授業展開を見据えた上で、海の時間の活動計画の詳細を検討した。特に以前に実践経験のあった活動については再評価を行い教科学習との関連性が低いものについては計画変更を行い、より教科学習との関連性を高めることとした。また、継続して行った活動についても内容について連携機関と綿密な打合せを行うことで学校が期待する活動内容となるよう考慮した。これらの点から昨年度から大幅な活動の変更はないものの、活動内容の充実と洗練度を高めることができると考えた。

平成29年度の実践計画<事業計画申請分>は以下の通りである。

活 動 内 容	実施学年	関連する教科
ア. 『紀の松島巡り』への乗船体験⇒【内容変更】	1,2年生	生 活
イ. 『くじら博物館』での体験学習	3,4年生	理 科
ウ. 『まぐろ体験 CAN』で体験活動	5,6年生	社 会
エ. ウミガメ保護活動	5年生及び全学年	理科、総合
オ. シュノーケリング体験学習	5,6年生	理 科

②実践の評価について

各実践について、各学年単位で各事業終了後、担当者、管理職を含めて事業計画に照らし合わせ教育効果、対費用効果、安全性等について評価を行い実践の妥当性を検証することとした。また、教育効果については児童の成果物、感想、教科指導時の反応や習熟度等を元に総合的に評価することとし、できる限り客観性を保つよう配慮した。

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

【変更点】

1. 「アカウミガメの卵の保護及びふ化したウミガメの放流」については、保護団体関係者における講話及び産卵場の清掃活動、卵の保護場所の整備等準備は滞りなく行ったが、今年度はウミガメの産卵行動が確認できず卵の移動以降の活動計画については未了となった。
2. 「JAMSTEC 職員による海についての講話」は職員の勤務日程と学校での学習のタイミングで調整がつかずキャンセルせざるを得なくなり今年度は中止とした。
3. 「紀の松島巡り 乗船体験」については新年度に入ってから、その学習効果等について再検討した結果、教科学習との関連性が高くないこと、低学年が理解できる学習内容が期待できないことから「海中公園見学」へと変更した。

【追 加】

4. 水質維持装置についての研究

前年度までウミガメ飼育期間中の海水は、入れ替えによってその水質を維持していたが、子ガメの健康を保持するためには頻繁に海水を汲みに行く必要があり、職員の負担も大きなものとなっていた。また、教員研修プログラムでの研修より学校内での海洋生物の飼育例があることから、海水の水質維持が本校の海洋教育の発展のヒントとなると判断した。そこで海水魚の飼育技術を例に海水の浄化システム構築を職員研究として行った。

②実践の成果

1. フィールドワーク（磯観察）

①実施日・学年：4月28日（金）全学年

②活動内容：校区内の磯に行き海洋生物の採取・観察を行った。エビ、カニ、クラゲ、魚類、貝類等を採取、海洋生物の多様な形態の観察を行った。

③成果・課題等：身近な生活圏内に生息する海洋生物についての知識を得ることができた。ただし、生物種について採取と同時に同定ができなかったため個体の特性についての知識を深めることができなかった。

2. ウミガメ保護活動

①実施日・学年：5月8日～7月上旬 第5学年

②活動内容：校区内の浜辺に産卵されたウミガメの卵を地域の保護団体の方と共に保護する。保護団体の方からウミガメの生態や産卵の状況、ウミガメの保護や環境保全についての講話を受けた。今年度は産卵が行われなかったため、学校敷地内に海岸より砂を運搬し卵の育成場所を設置する段階に留まった。

③成果・課題等：ウミガメの生態や近隣の海岸や黒潮についての知識を深めることができた。また環境保全の意識も高まった。

3. 大浜クリーン作戦

①実施日・学年：5月12日（金）全学年

②活動内容：校区内の海岸で漂着物の撤去し環境保全活動を行った。

③成果・課題等：地域のウミガメ保護団体の方の指導の下、海岸漂着物の撤去を行い児童の環境保全に対する意識を高めることができた。

4. 海の船の絵写生会

①実施日・学年：6月2日（金）第5，6学年

②活動内容：図工の絵画制作として勝浦漁港で船舶の写生を行った。

③成果・課題等：近隣地域の地形や漁業を身近に感じる体験となった。

5. 海の教室「串本海中公園見学」

- ①実施日・学年：6月26日（月）4，6学年 9月19日（火）1，2学年
- ②活動内容：海洋生物について学芸員から説明を受け、その種別や生態、特徴について知識を深めた。海中展望台で実際の海中様子を観察、水族館バックヤードの見学等、多彩なプログラムを実施した。
- ③成果・課題等：普段は見るできない海中の様子や海洋生物の生態について学芸委員の説明を受けながら見学することで多様な角度から知識を深めることができた。

6. シュノーケリング体験学習

- ①実施日・学年：7月10日（月）第6学年 7月11日（火）第5学年
- ②学 年：第5、6学年
- ③活動内容：串本町にてシュノーケリング体験学習を実施。自分の力で海中の様子を観ることで、地域の海中の生態系について理解を深めた。
- ④成果・課題等：非常に貴重な体験となったが、同時に安全確保にも細心の注意が必要である。

7. 全校児童海水浴

- ①実施日・学年：7月18日（火）全学年
- ②活動内容：校区内にある海水浴場で縦割り班による水泳実習を実施。
- ③成果・課題等：集団行動における規律や協調性を高めると共に地域の豊かな自然環境を実感することができた。

8. 船長体験教室

- ①実施日・学年：9月26日（火）全学年
- ②活動内容：東京海洋大学の学生による海運についての講演と手旗信号の体験学習を行った。
- ③成果・課題等：大きな港湾がなくあまりなじみのない海運についての話や手旗信号は、児童にとって大変興味深い内容となった。

9. ダイビングインストラクターによる講演

- ①実施日・学年：10月11日（水）Ⅰ部 第1，2学年、Ⅱ部3，4学年
- ②活動内容：低学年、中学年単位で教科（国語等）の教材とリンクした海棲生物の話聞いた。インストラクターの実体験に基づく貴重な話を聞くことができた。

10. くじらの博物館見学

①実施日・学年：10月12日（木）第3，4学年

②活動内容：太地町立くじらの博物館にて館内見学及びふれあい体験学習を行った。学芸員からはほ乳類としてのくじらの特徴についての話を聞き、ふれあい体験学習では、水中のイルカに直接接触れ生体の特徴を体感した。

③成果・課題等：学芸員と打合せを行い、教科（理科）学習の内容に沿った話を聞くことができた。

1.1. 海産加工品づくり体験学習

①実施日・学年：平成30年2月8日（木）第5，6学年

②活動内容：「マグロの缶詰製作」「干物づくり」の実習を行い水産加工業について実体験した。

1.2. 水質維持装置についての研究

①実施日・学年：平成30年3月 教職員・6年生一部児童

②活動内容：海洋生物飼育用水槽のための濾過装置について研究。海水魚の飼育水槽をモデルとして海水の浄化用濾過槽を構築した。児童の意見を取り入れながら観察対象の海洋生物が生命維持できる環境を作り上げた。

○全活動を通して

全ての活動に共通することは、児童の学習に対するモチベーションが非常に高く関連する教科学習への波及効果が期待した以上であった。また、継続して実践を行っている成果が活動の随所に見られた点も成果として挙げられる。一例を挙げると『串本海中公園』見学時に低学年、高学年ともに学年を問わず全ての児童で生きた子ガメを平然と持ち上げる、あるいは甲殻類の標本に興味を持って手に取るという行動が見られた。一般的な小学校では、これらの鼓動がとれない児童がある一定の確率で存在すると考えられる。

児童にとって海洋学習が身近な学習内容であり、興味や関心の高い活動として定着している点も各種の成果物からくみ取ることができる。そして、今年度の実践の成果を次年度へ確実に継承してゆく必要があると考える。

③次年度への課題

今年度の実践を踏まえ課題として明らかになった点について、活動内容の修正及び学習効果の向上が見込まれる改善を行ってゆく。具体的には、フィールドワーク（磯観察）に於いて指導者がより詳しい知識を持ち児童への指導が行えるようになる、施設見学についても学芸員に全てを依存せず学習内容についての詳細な打合せを行う、教員も内容についての知識を習得する等、今年度実践したことも含めて継続的に指導者の海洋教育への指導力の向上を図る必要がある。併せて観察器具の充実や画像等の観察記録をとる方法を整備し児童の学習環境を改善してゆくこと

で、より深い学習を行うことが期待できる。

今年度末に構築した海洋生物用水槽を活用して海洋生物の観察等をより充実したものとすると共に、実績を元にウミガメの長期飼育への可能性を探るなど発展的な活動も課題として考える。

また、ウミガメの保護活動については、現在知られているウミガメの生態等に見合った保護活動を展開してゆく必要があり、校内の設備面や実施計画についても検討を行ってゆく必要がある。

6. 主な連携機関及び内容

A：ウミガメ保護団体『玉の浦リップルズクラブ』

内 容：ウミガメ保護活動（第5学年）、大浜クリーン作戦（全学年）

B：串本海中公園

所在地：〒649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田 1157

内 容：海の教室（第1,2,4,6学年）

C：太地町立くじらの博物館

所在地：〒649-5171 和歌山県東牟婁郡太地町太地 2934-2

内 容：海洋生物ふれあい体験学習（第3,4学年）

D：南紀シーマンズクラブ

所在地：〒649-3503 和歌山県東牟婁郡串本町串本 6 3 0

内 容：シュノーケリング体験学習（第3,4学年）

海洋生物についての講話（第1,2,3,4学年）

E：海事普及会（東京海洋大学）

所在地：〒108-8477 東京都港区港南 4 丁目 5 7 船長体験教室（巡回活動）

内 容：船長体験教室（全学年）

F：まぐろ体験 CAN（那智勝浦町観光協会）

所在地：〒649-5335 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町築地 7-8-2

内 容：海産加工品づくり体験学習 第6学年「マグロの缶詰製作」

第5学年「干物づくり」

1年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」20時間、生活9時間、道徳2時間、国語8時間、図工6時間、体育2時間 計47時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
体験的な活動	<p>「生きものとなかよし」【生活2h】 ・校区内の磯まで歩き、学校周辺の様子を知ると共に、磯の生きもの探しを行い海洋生物に興味を持つ。</p>			<p>「さあ みんなでかけよう」【生活2h】 ・砂浜で造形遊びをしながら、磯と異なる海岸線の様子を知る。</p>		<p>「玉の浦」で泳ごう【体育2h】 ・身近な海水浴場で、集団行動の基礎と体力を身につ</p>		<p>「生きものにあいに行こう」【生活4h】 串本海中公園で海の生きものを知ろう。・黒潮の海の特徴とそこに生き</p>							
表現活動	<p>「せんせいあのね」【図工2h】 ・体験を元に「海」の絵を制</p>			<p>海に親しむ</p>		<p>「やぶいたかたちからうまれたよ」【図工4h】 ・体験を元に「ちぎり絵」で</p>									
探求的な活動	<p>海を守る</p> <p>「大浜クリーン作戦」【道徳2h】 ・清掃活動を通して、環境保全を学</p>			<p>海を利用する</p> <p>「船長体験」で海と人の関わりを知ろう【生活1h】 ・手旗信号体験や海運について話しを通して</p>		<p>「うみのかくれんぼ」【国語8h】 海の先生に教えてもらおう。1h ・インストラクターから海洋生</p>									

2年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」20時間、生活6時間、道徳2時間、国語8時間、図工6時間、体育2時間 計44時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
体験的な活動	<p>「みんな 生きて いる」【生活2h】 ・磯の生きもの探しを行い海洋生物に興味を持つ。</p>			<p>「どきどきわくわくまちたんけん」【生活2h】 ・学校周辺のようすを知ると共に、磯と異なる</p>		<p>「玉の浦」で泳ごう【体育2h】 ・身近な海水浴場で、集団行動の基礎と体力を身につ</p>	<p>「みんな 生きてい る」【生活1h】 串本海中公園で海の生きものを知ろう。・黒潮の海の特徴とそこに生きる海洋生物を知る。</p>						
表現活動	<p>【図工2h】 ・体験を元に「海」の絵を制作し豊かな海のイメージを育成する。 「ていねいにかんさつしよ</p>			<p>豊かな海の姿を知る</p>		<p>海と生物 海洋生物を知る</p>		<p>海みの作品を作ろう」【図工4h】 ・体験を元に海を絵画で表現</p>					
探求的な活動	<p>海を守る</p> <p>「大浜クリーン作戦」【道徳2h】 ・清掃活動を通して、環境保全を学</p>			<p>人と海 の関係を考える</p> <p>「船長体験」で海と人の関わりを知ろう【生活1h】 ・手旗信号体験や海運について話しを通して</p>		<p>「つたえたいことをはっぴょうしよう」【国語8h】 海の先生に教えてもらおう。1h ・インストラクターから海洋生</p>							

3年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

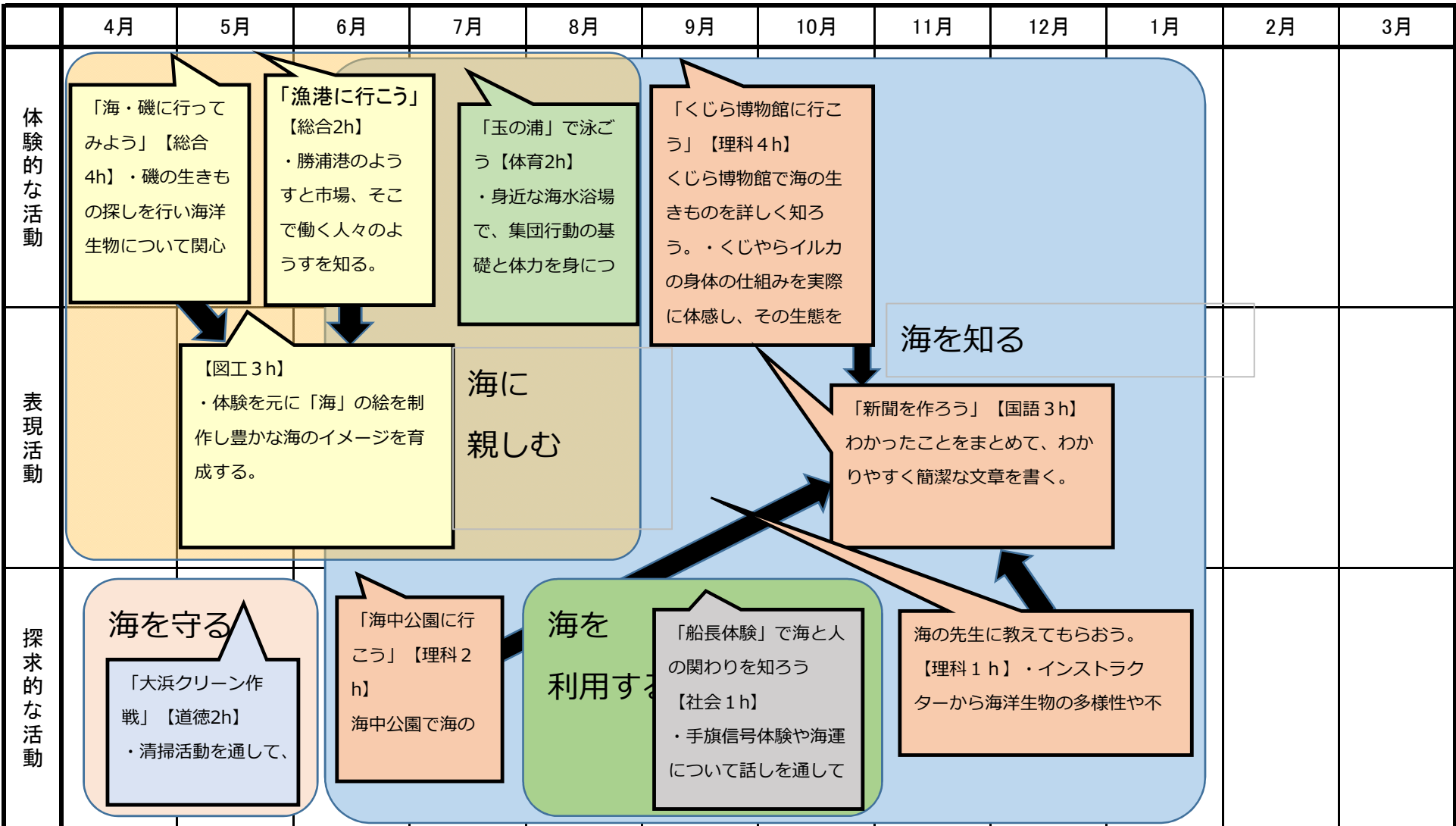
時数：「海の時間」25時間、総合6時間、道徳2時間、国語2時間、理科5時間、図工3時間、体育2時間、社会1時間 計46時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	「海・磯に行ってみよう」【総合4h】 ・磯の生きもの探しを行い海洋生物について関心		「漁港に行こう」【総合2h】 ・勝浦港のようすと市場、そこで働く人々のようすを知る。		「玉の浦」で泳ごう【体育2h】 ・身近な海水浴場で、集団行動の基礎と体力を身につ		「くじら博物館に行こう」【理科4h】 くじら博物館で海の生きものを詳しく知ろう。 ・くじらイルカの身体の仕組みを実際に体感し、その生態を					
表現活動	【図工3h】 ・体験を元に「海」の絵を制作し豊かな海のイメージを育成する。		海に親しむ		海を知る		「ほうこくするぶんしょうを書こう」【国語2h】 わかったことをまとめて、的確に相手に伝わる文章を書く。					
探求的な活動	海を守る 「大浜クリーン作戦」【道徳2h】 ・清掃活動を通して、環境保全を学		海を利用する 「船長体験」で海と人の関わりを知ろう【社会1h】 ・手旗信号体験や海運について話しを通して		海の先生に教えてもらおう。 【理科1h】 ・インストラクターから海洋生物の多様性や不							

4年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

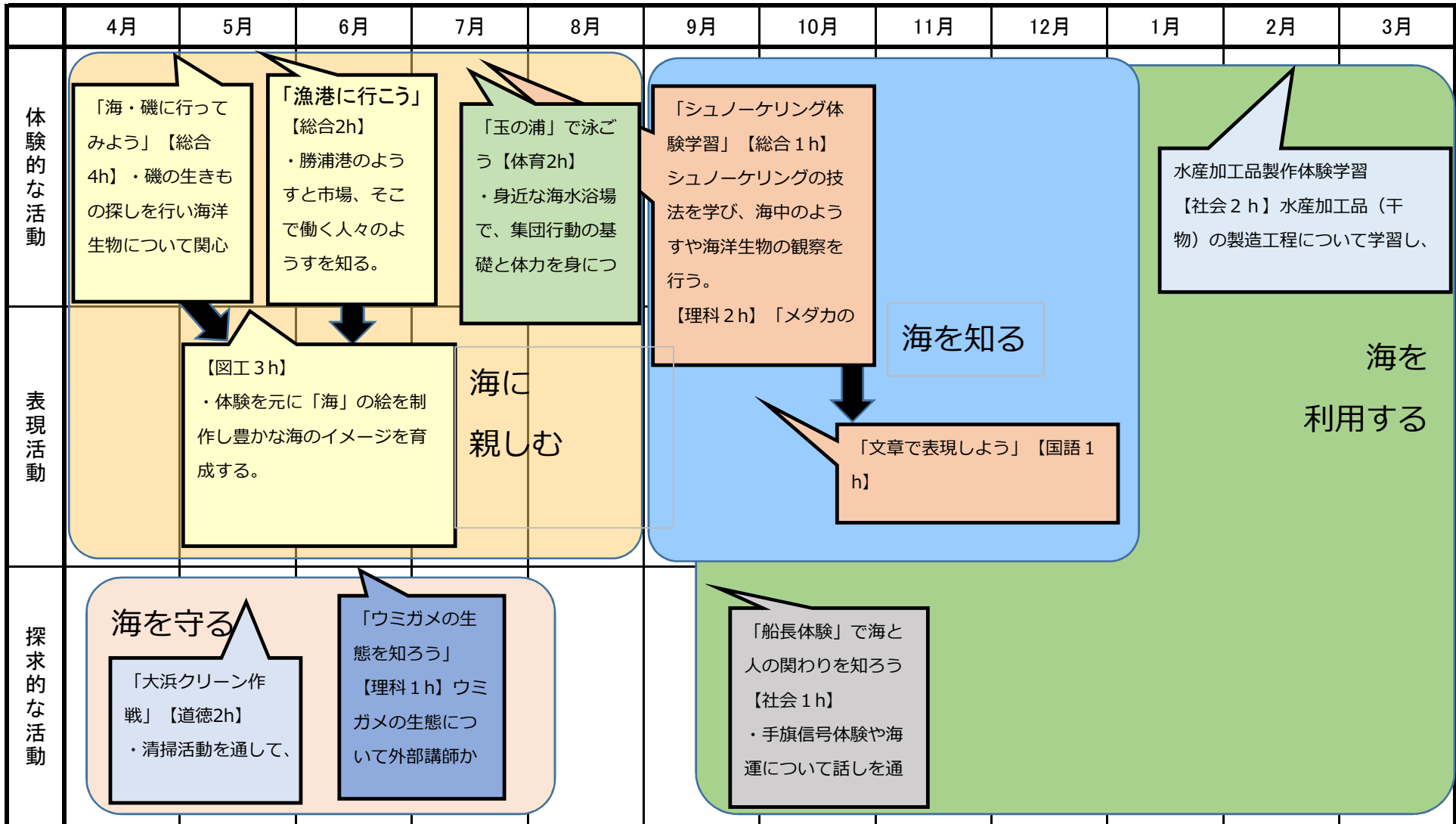
時数：「海の時間」25時間、総合6時間、道徳2時間、国語3時間、理科6時間、図工3時間、体育2時間、社会1時間 計48時間



5年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」25時間、総合7時間、道徳2時間、国語1時間、理科3時間、図工3時間、体育2時間、社会2時間 計45時間



6年生「もっともっと、ふるさと“那智勝浦”“和歌山”の海を知ろう！」

【実践のねらい】黒潮がもたらす豊かな海の幸に恵まれた自然環境について、その特徴や社会生活に与える影響を「体感的な海」「海洋生物」を題材として学んでゆく。又、発達段階に応じて「知る」「表現する」「活用する」と学習活動の範囲を広げ、環境保全や経済活動への活用に対して将来的に主体的に行動できる力を育成する。

時数：「海の時間」25時間、総合7時間、道徳2時間、国語1時間、理科4時間、図工3時間、体育2時間、社会2時間 計46時間

